

化の影響は顕著に見られ、専業農家は耕地の拡大あるいは小規模集約化を促進させ、兼業農家ではより省力的農業経営へと、指向しているように思われる。そして本域全体の将来としては、これから先も水稲作中心の農業経営が続行されるであろうが、その中に家畜の積極的導入、酪農、園芸農業等が、近年開通予定の中央自動車道の開設とともに、今後、本地域内での農業的發展という点で、重要な役割を果すものとなってくるように思われる。

地下鉄東西線沿線の地理学的研究

宮 島 悦 子

地下鉄東西線上に於ける大手町から西船橋に至る間の沿線地域は、著しいテンポの都市化現象が見られる東京周辺の中で、比較的開発の遅れた東京湾岸地帯東部に属する。論文ではこの地域を対象とし、そこに密着した産業の変容と都市的發展との関連性に着目して地域全体の發展方向を考察することを目的とした。また、地域を日本橋地域、江東デルタ地帯南部、葛西と浦安地域、行徳地域と、4つに分類した。

日本橋地域には中小卸売問屋街が集中的に立地するが、これは江戸時代に水運を利用して成立して以後現在に至るまで明治中期の形態を維持しているものである。都心にあって旧態依然とした形態に改革が迫られている。江東デルタ地帯はやはり江戸時代からの基盤の上にたつ工業地域で、中小工場が大部分を占める。しかし工場は各種公害を伴い、工場地帯として限界にきている状態である。そのため工場移転は重大な課題となっている。葛西と浦安は東西線開通まで交通面での孤立地帯であり、現在は最も変貌を見せているが特に浦安町は今日まで生業としてきた漁業が埋立により廃止されたこと、京葉工業地帯の一環としての開発が進んでいることなどから町にとっては一大転換期にきているといえる。行徳地域も広範囲にわたる区画整理事業が行なわれ、水田の住宅地化により埋立地の工業化と共に京葉工業地帯に含まれて發展する可能性が強い。

以上の産業が各地に立地し發達したことには共通の位置条件が考えられる。①東京湾に面し、隅田川、荒川、江戸川など大河川の下流にひらけた低温なデルタに位置する。②江戸時代から浅海を利用して埋立を重ね、面積を増加した。③江戸以来、大都市圏地域としてその存在の直接の影響を受けてきた。④河川から引いた多数の運河を作りこの水運によって各地の交通が結ばれた。昭和に入っても浦安では船に頼り、それ以降も葛西、浦安地域はバス交通のみで、都心から12Kmの範

困に位置しながら1時間半を費していた。このため東西線開通はこの地域において非常に大きな影響があった。

4つの位置条件のもとに全体を把握すると次のことがいえる。第1にデルタの低湿地という地形条件から水田が農業において主流となったことが葛西、浦安、行徳についていえる。同地域ではまた沿岸漁業の中でも、ノリ養殖や貝類採取を中心とする半農半漁経済が成立してきた。第2に運河を利用して船による運搬時代に、商業の主力であった問屋が運河沿いに立地し、同時に手工業者も水運を利用してその周辺に集中立地したのが、日本橋江東地域である。この都心地域では、自動車交通が過密状態にある今日では、輸送の困難をきたしている。しかし、浦安、行徳方面では東西線が通ったことに象徴されるように千葉の工業地域と都心を結ぶ交通は今後ますます発達するものと予想される。

交通の発達は今後人口流動量を増加し、この地域が発展段階にある京葉工業地帯と都心を直結する線上に位置していることから、東京湾岸地域として一体となった発展を促進させる役割を果すものと考えられる。

富山市と高岡市の比較研究

若林佳子

富山県には、富山市（人口約27万人）と、高岡市（人口約16万人）の2つの旧城下町がある。特に、高岡市は、加賀前田藩の支配下にあり、従って現在のこの市の伝統産業も、当藩の商工業保護政策に基づいて発展して来たものである。そして、それが更には、アルミ加工などの近代工業を目芽えさせる基盤ともなっていた。高岡市のこの様な発展は、およそ第二次大戦前まで続くのであるが、廃藩置県当時には、その地理的位置の好都合なことなどから、富山市が県庁所在地となった。

現在、富山市は、富山県の中核管理機能の拠点都市として、そして、高岡市は、県南、西部の中心都市として、おのおの、そのユニークな特色を生かしながら発展の途を歩んでいるが、その発展途上においても、それぞれ独自に成長して来たものもある反面、両市が何らかの形で影響し合いながら今日に至ったものも少なくないと考えられる。そこで、この両都市がどの様に関連し合ってきたか、その結果、現在ほどの様な差異が見られるか、更には、両市が富山県の中でどの様な位置を占めているかなどを、人口・商業・工業・農業等の面から考察するのが、本論文の目的である。以